

◆ Adobe Creative Cloud ビデオ製品アップデート 説明会（4月14日開催）の資料を紹介する。



ビデオ制作のスタンダードとして

- アドビは、クリエイターが作品制作において、信頼を寄せるクリエイティブ・プラットフォームです。
- 動画制作とその制作に関わる人々を深く理解しています。
- AIにより、さらに創造性が引き出されます。



テクノロジーの進化の過程でも変わらない信頼

アドビのクリエイター支援の歴史：



ツールが進化しても変わらない クリエイティブの本質

- ビデオプロフェッショナルの制作ワークフローを数十年にわたり支援
- クリエイティブな現場のリアルを形にしたツール
- アドビは、**アイデア出し → 編集 → 仕上げ → 納品**まで、制作環境の変化の過程全てでクリエイターを支える基盤を提供



Empowering everyone to create

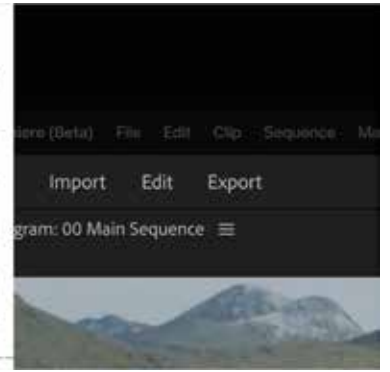


Premiere アップデート

カラーモード（ベータ）のご紹介

新しいカラーグレーディングと編集者の意向に沿った新機能

- **LK**：大型プログラムモニタ、縦型クリップブリード、Premiereならではの自在なワークスペースカスタマイズによる、新しいカラー体験を提供
- **カラーコントロール**：操作内容をリアルタイムで可視化するアニメーションHUD付き両方向コントロールを実装。経験者から初心者まで直感的な操作が可能
- **スタイリッシュなジェネラル・フィルムエミュレーションとカラーエフェクトの個別適用** - プリセット適用が可能。複雑なルックをシンプルに操作で実現する高度なカラーグレーディング機能を提供
- **オペレーションズ**：クリップ・グループ・シーケンス単位でのカラーグレーディング、コピー、移動を可能にする新しいワークフローを提供
- **AIオプティマズマスクとシェイプマスク**：セパレートマスクによる即時マスクングにより、高速かつ両方向の10ドットトラックによる解写対応グレーディングが可能



新しいカラーモード

カラー調整が編集者の思いのままに

- **ポストプロダクション分野で最も尊敬されるプロダクトマネージャー** / 著者の一人、アレクシス・ヴァン・ハカマンによるアーキテクチャ設計
- **3年間にわたる開発と、Premiere史上最大規模のプライベートベータに参加した数百人の現役編集者によるフィードバックを反映**
- **カラーマネジメント、オブジェクトマスク、シェイプマスク、パフォーマンス改善など、Premiereの基盤強化を集約した統一システム**
- **ユーザー一人ひとりに合わせた編集体験**
- **4月15日（米国時間）よりパブリックベータ版の提供開始**



Premiere 26.2 : ワークフローをさらに高速に

作業の質を高い操作性を向上

- **グラデーション、ノイズ、プラー（チャンネル）**などを含む、5種類の新しいGPU高速化エフェクトおよびトランジションを追加
- **AIを搭載したオブジェクトマスク**に新たに「エッジを調整」ツールを追加。より滑らかにエッジまで通知可能な高精度マスク調整が可能
- 「**シーケンスインデックス**」機能により、より正確で簡単なタイムラインおよびメディア管理が可能
- **メディア再リンクの高速化**によりクリップの検索精度を向上



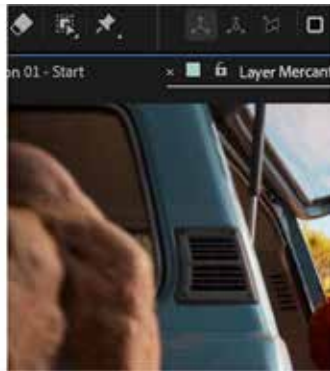
カラーモードおよび Premiere 26.2 デモ

After Effectsアップデート

After Effects 26.2: AI搭載の新オブジェクトマットツール

シンプルなホバー&クリック操作で、モーションデザインやコンポジット向けの高質なマットを作成

- ・クイック選択ブラシ、エッジを調整ツールなどを含む、新しいAI搭載ロトスコップツールが登場
- ・すばやく正確なトラッキングにより、マット作成を高速化
- ・髪などの精密処理、空気表現、動きの速い被写体といった複雑なマットにも対応
- ・PremiereのオブジェクトマスクをAfter Effectsにも導入し、After Effectsならではのさらなるパワー、コントロール、精度を実現



After Effectsデモ

よくあるソリューション



Frame.io Drive の紹介

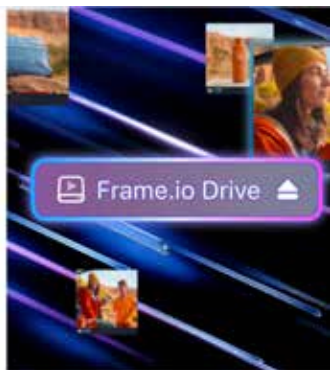
共有された Frame.io のストレージをローカルにマウントすることで、ダウンロードやアップロードを待たずに、ローカル保存と同様のパフォーマンスで、高品質なメディアファイルを自由に編集作業が可能

- ・ドライブの送付は不要
- ・ダウンロードは不要
- ・VPNの接続は不要
- ・バージョンの混乱はなし



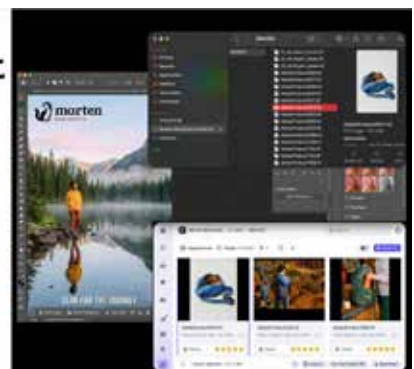
Frame.io Drive アップデート

Frame.io Driveとマウントストレージの提供開始



Frame.ioマウントストレージでできること

- ・アセットへの即時アクセス
- ・クリエイティブワークのために設計されたツール
- ・唯一の信頼できる情報源
- ・すべてのレイヤーに組み込まれた信頼性



クリエイティブなコラボレーションは世界規模に広がっていますが、ファイル共有はまだ簡単とは言えません

- ・終わりのないファイル転送
- ・ダウンロードの待ち時間
- ・チーム間でドライブを送付する手間
- ・バージョン管理の混乱



共有ワークスペースはひとつ、信頼できる情報源もひとつ



Frame.ioは、クリエイティブチームが使う全てのCreative Cloudツールにまたがる基盤

- すべてのクリエイティブツールはFrame.ioで一元管理され、ローカルにマウントされます
- すべてのアセットが即座に各アプリで利用可能です
- 組織全体がデフォルトでつながります



Adobe

Firefly 動画エディター (Beta) でアイデア出しから完成まで



- Adobe Firefly で生成したコンテンツを完成形に仕上げるブラウザベースの動画エディター
- 生成したクリップや自身で作成した映像、効果音や音楽をひとつの場所ですべて編集
- クイックカットや字幕テキスト編集など、複数の編集方法に対応。タイムラインでの直接編集も可能に

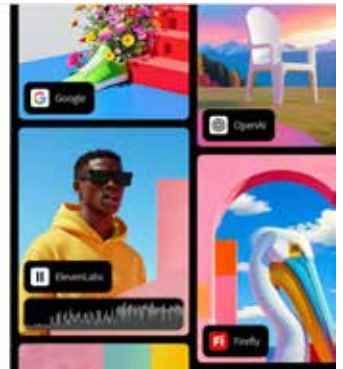
主なアップデート

「スピークを強調」をはじめとした高度な音声編集機能
Adobe Stockと連携し、9割以上のアセットへのアクセスが可能

より多くのモデルで、より多くの選択肢を

より多彩な創作方法

- Kling 3.0 は、高品質かつスピーディーな制作に最適化された、汎用AIビデオモデル。優れたストーリーボードリング機能と録音・音声の高い同期精度を実現
- Kling 3.0 Omni は、高度なコントロールと一貫性を提供。ショットの長さ、カメラアングル、キャラクターの動きもシーケンス全体で自在に設定可能
- Adobe Firefly では、30以上の業界をリードするAIモデルを利用可能



Adobe

Fireflyの動画編集機能アップデート

Adobe

Empowering everyone to create

A grid of Adobe Creative Cloud products and their features:

- Pr Adobe Premiere**: プロフェッショナルなビデオ編集
- Ae Adobe After Effects**: モーション・グラフィック
- Fi Adobe Firefly**: AIで生成したクリップと効果音

Additional features listed:

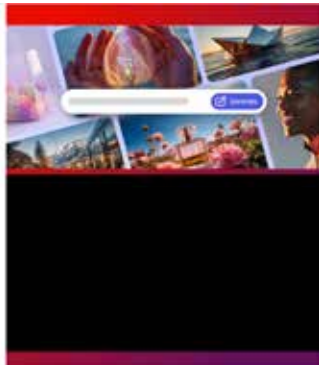
- 新しいカラーグレーディング機能
- ワークフローの改善
- AI生成オブジェクトマッピング
- 新しいデスクトップアプリとマウントストレージ
- 高度なオーディオコントロール
- Adobe Stockとの統合
- 主要パートナーモデル

Adobe

Adobe Fireflyで全てのクリエイティブAIスタジオをひとつに

クリエイティブの進化に合わせたアップデート

- Adobe、Google、Runway、Black Forest Labs、Luma AIなど30以上の先進的なクリエイティブAIモデルと、優れたマルチモーダルツールをひとつに
- 生成から編集、仕上げまでを全て一か所で完成
- Adobe Creative Cloudとシームレスに連携



Adobe

NAB Show 2026

アドビブース出席 日本語ブースツアーも実施

- <日本語ブースツアー概要>
- ブースナンバー：N2541 North Hall
- 開催日時（現地時間）：
 - 4/19 (日) PM1:00
 - 4/20 (月) PM3:00
 - 4/21 (火) PM3:00

ご参加希望の方は、アドビ広報事務局 (AdobeP@hoffman.com) まで



Adobe

◆第39回東京国際映画祭:新たなフェスティバル・ディレクターを迎え開催!

公益財団法人ユニジャパン（代表理事：松岡宏泰 東宝株式会社代表取締役社長）は、本日4月14日（火）に臨時理事会の決議（決議の省略手続き）により、久松猛朗（ひさまつたけお）がフェスティバル・ディレクターとして就任することを承認しました。安藤裕康（あんどひろやす）チェアマンは5月31日付で退任となります。安藤は2019年7月にチェアマンとして就任、以降メイン会場の移転、プログラマーの再編、交流ラウンジ等の国際交流の促進など数々の改革を推進、東京国際映画祭の躍進に貢献しました。フェスティバル・ディレクターとなる久松は2017年3月から2021年3月にも同フェスティバル・ディレクターを務めておりました。なお、安藤はこの度フランス政府より芸術文化勲章オフィシエを授与され、4月15日（水）に駐日フランス大使による叙勲式が行われます。

「東京から映画の可能性を発信し、多様な世界との交流に貢献する」というミッションに基づき、新たなフェスティバル・ディレクターの下で新しい時代に、皆様楽しんで頂けるような映画祭にしていきたいと思っておりますので、是非ご期待下さい。

■安藤裕康チェアマン コメント

7年間にわたるチェアマン職を通じ、私が取り組んできた課題は4つありました。

具体的には、①作品と人を通じる国際交流の深化、②社会的課題との取り組み、③人材の育成、④開催地元との協力関係の強化、です。その結果として、観客動員数、予算収入、海外からのゲスト数の増加などの形で、一定の成果を上げることができたのではないかと考えています。

しかしながら、東京国際映画祭はまだまだ発展途上にあり、更なる高みを目指していかなければなりません。新しいリーダーシップの下で皆様方のご支援、ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

■久松猛朗フェスティバル・ディレクター コメント

この度、5年ぶりに東京国際映画祭のフェスティバル・ディレクターを拝命致しました。

この重責を再び担う機会を頂いたことを大変光栄に思います。前回の在任中は「アートとエンターテインメントの調和」を掲げ、多様な上映作品とイベントを通して祝祭感溢れる映画祭を目指し、動員数の増加にも貢献することが出来ました。

現在、政府がコンテンツ産業を重要な成長分野として位置付け、支援を強化している中、本映画祭もその一翼を担い、映画産業の文化的価値の深化と商業的発展の双方に貢献していきたいと考えています。

皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

<久松猛朗プロフィール>

1954年山口県下関市生まれ。78年松竹株式会社に入社。宣伝プロデューサー、映画興行部・番組編成担当等の勤務を経て86年にアメリカ松竹「リトル東京シネマ」の支配人となる。89年に東京へ戻り、興行部次長に就任。94年タイムワナーエンターテイメント



久松猛朗 HISAMATSU Takeo

ジャパン株式会社に入社し、ワーナーブラザーズ映画の営業本部長となる。その後、松竹株式会社に再入社し、2001年取締役映画部門&映像企画部門を担当。03年に常務取締役に就任する。06年株式会社衛星劇場 代表取締役社長を経て、10年ワーナーエンターテイメント・ジャパン株式会社に再入社。ワーナーブラザーズ映画副代表となる。2017年度から2020年度まで東京国際映画祭のフェスティバル・ディレクターを担務。現在はマイウェイムービーズ合同会社代表。

<第39回東京国際映画祭 / TIFFCOM 2026 開催概要>

【第39回東京国際映画祭】

開催期間：2026年10月26日(月)～11月4日(水)【10日間】

■主催：公益財団法人ユニジャパン ◇公式サイト：www.tiff-jp.net

【TIFFCOM 2026】

開催期間：2026年10月28日(水)～10月30日(金)【3日間】

■主催：経済産業省、総務省、公益財団法人ユニジャパン ◇公式サイト：tiffcom.jp

【本件に関する問い合わせ（公益財団法人ユニジャパン内）】

東京国際映画祭事務局 プロモーショングループ

TEL:03-6226-3012 E-mail: tiff-press@tiff-jp.net

TIFFCOM 事務局 E-mail: press@tiffcom.jp

◆第39回東京国際映画祭 作品エントリー開始!!

【募集期間：4月7日（火）～7月7日（火）】

第39回となる東京国際映画祭を10月26日(月)～11月4日(水)にて日比谷・有楽町・丸の内・銀座地区にて開催する予定です。本日より第39回東京国際映画祭の作品募集を開始します。

東京国際映画祭ではこれまで様々な部門で世界の第一線で活躍する監督たちの新作やこれから世界に躍り出るであろう才能あふれる監督たちの力作を数多く上映してきました。映画祭の顔となる「コンペティション」部門については、これまで同様にジャパン・プレミア（日本初上映）を原則とする方針で日本未公開作品を公募します（ドキュメンタリーとアニメも対象となります）。

「アジアの未来」部門も例年同様日本・中東地域を含めたアジアの



Closing Ceremony_©2025 TIFF

新鋭監督の3作目までのフレッシュな魅力あふれる長編作品を集め、作品賞を競う形となります。その他の部門についても確定次第追って発表致します。

応募詳細は、東京国際映画祭作品応募ページにてご確認ください。

応募ページ：<https://www.tiff-jp.net/entry/competition2026/>

今年も「東京から映画の可能性を発信し、多様な世界との交流に貢献する」というミッションの元、世界中から多種多様な作品を集め、観客にとっても製作者にとっても、楽しく意義のある映画祭にしていきたいと思います。

第39回東京国際映画祭 作品応募について

<賞対象部門・賞>

(1)「コンペティション」部門

映画祭の主要部門として、映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際文化交流に寄与することを目的に、2026年1月以降に完成した長編で原則日本未公開の作品を世界中から公募し、厳正な予備選を経た作品を会期中に上映。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）によるQ&Aを行い、観客との交流の輪を広げる。昨年は108の国と地域から1,970本の応募。

賞：東京グランプリ / 審査委員特別賞 / 最優秀監督賞 / 最優秀女優賞 / 最優秀男優賞 / 最優秀芸術貢献賞 / 観客賞

(2)「アジアの未来」部門

アジア（日本・中東地域を含む）で作られた新鋭監督の3本目までの長編作品を対象にした第二コンペティション部門

賞：アジアの未来 作品賞

<応募期間・エントリー料>

早期エントリー：2026年4月7日（火）～5月26日（火）は3,300円（税込）

通常エントリー：2026年5月27日（水）～7月7日（火）正午まで5,500円（税込）

締め切りは2026年7月7日（火）正午（早期エントリー締切：2026年5月26日）

応募に関する詳細は、応募ページ（<https://www.tiff-jp.net/entry/competition2026/>）をご覧ください。

★作品応募に関するお問い合わせ先：

東京国際映画祭事務局 プログラミンググループ

E-mail：competition2026@tiff-jp.net

★その他お問い合わせ先：

東京国際映画祭事務局 プロモーショングループ

Tel: 6226-3012 E-mail：tiff-press@tiff-jp.net

◆ NHK 放送技術研究所：「空飛ぶロボカメラ」と「IP 回線中継ドローン」を開発

～災害時でも途切れない、高画質な空撮映像と通信エリアの提供を実現～

NHK 放送技術研究所（技研）は、放送局におけるドローンの活用範囲を広げるため、ドローン用の無線伝送技術の研究を進めている。今回、放送事業用の自営無線回線を用いた「空飛ぶロボカメラ」と「IP 回線中継ドローン」を開発した。

「空飛ぶロボカメラ」は、既設の受信基地局の方向に電波の送信方向を自動で切り替えることで、空撮映像の安定的な長距離ライブ伝送を実現した。また、「IP 回線中継ドローン」は、空撮映像だけでなく、ドローンの監視・制御信号や地上端末との通信も自営回線で伝送可能とした。

これらの技術により、従来のドローンでは難しかった「長距離かつ安定した高画質中継」や、自営回線による「空撮映像とドローン操縦の長距離同時伝送」が可能になる。

【既設の受信基地局に高画質映像を伝送する「空飛ぶロボカメラ」】

～8km 先まで届く！ドローンから電波の送信方向を自動制御～
通常、ロボットカメラ（ロボカメラ）や取材ヘリコプターで撮影されたライブ映像の伝送には、FPU（Field Pick-up Unit）と呼ばれる放送事業者に免許された無線伝送装置が用いられています。今回、この FPU 送信機をドローンに搭載し、既設の受信基地局に高画質映像を伝送する「空飛ぶロボカメラ」を開発した。

■技術のポイント：アンテナ切替装置

FPU で送信した電波は、放送局の屋上や山頂の鉄塔などに設けられた受信基地局で受信します。長距離かつ高画質な映像を伝送するには、指向性を持ったアンテナを使い、受信基地局にアンテナ方向を制御して電波を送信する必要があります。しかし、取材ヘリコプ

ターなど送信機が移動する場合に用いられているアンテナやアンテナの方向制御機材は大きく、ドローンへの搭載が困難でした。そこで、複数の小型アンテナを 360 度全方向に向けて円周上に配置し、ドローンと受信基地局の位置情報に基づいて電波を送信するアンテナを目的の受信基地局の方向に切り替える「アンテナ切替装置」を開発しました。正確に電波の送信方向を制御できるようになったことで、長距離でも途切れにくい映像伝送が可能となる。

■実証実験の結果

2025 年 12 月に行った実験では、技研（東京都世田谷区）の敷地内を飛行するドローンから、約 8 km 離れた NHK 放送センター（渋谷区）屋上の受信基地局まで、約 40 Mbps の伝送レートで高画質な 2K 空撮映像を安定して伝送できることを確認しました。実験の結果から、さらに距離を拡大できる見込みを得ており、今後もフィールドでのトライアルを重ねていくとしている。

【さまざまな信号をやり取りできる「IP 回線中継ドローン」】

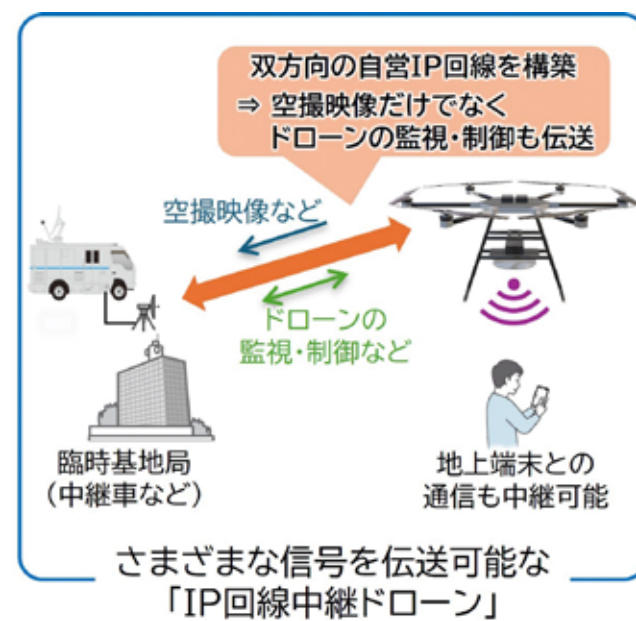
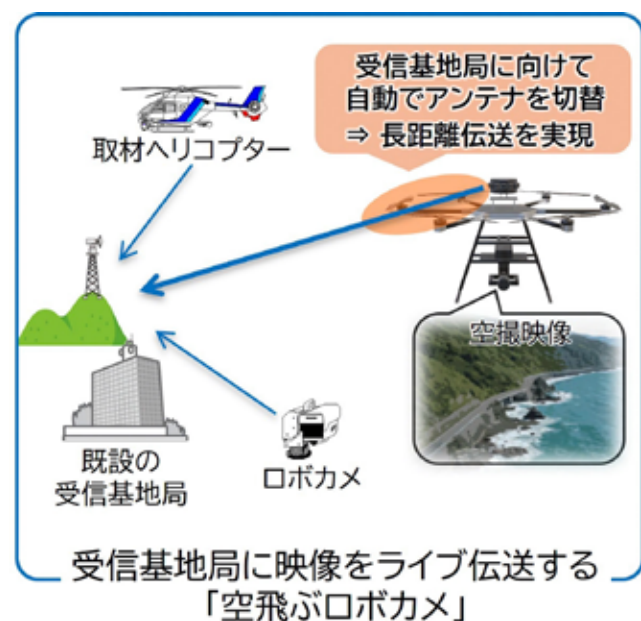
～災害に強い自営回線で、空撮映像の伝送とドローンの操縦を同時に実現～

「空飛ぶロボカメラ」で用いた FPU は送信専用であるため、ドローンから基地局に映像を伝送することは可能ですが、ドローンが基地局から信号を受信することはできません。そのため、監視・制御には一般的なドローンと同様に携帯電話回線などを利用する必要があります。

今回、この監視・制御信号も災害時に輻輳しない自営回線で伝送できるよう、信号の双方向伝送が可能な「小型双方向 FPU」を開発し、これをドローンと基地局のそれぞれに設置して IP 回線を構築する「IP 回線中継ドローン」を開発した。

■技術のポイント：小型双方向 FPU と IP 化

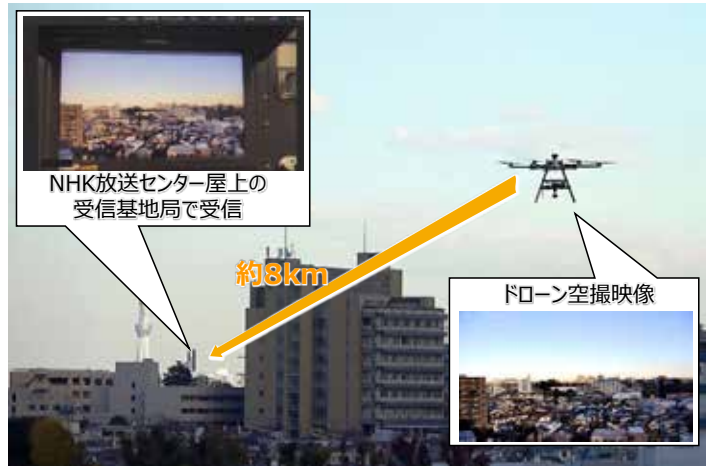
新開発の「小型双方向 FPU」により、以下のことが自営回線だけ



ドローンの新しい活用例



「空飛ぶロボカメラ」ドローン



実験の様子

で実現できるようになった。

①空撮映像の送信ドローンに搭載されたカメラの映像を IP パケット化して伝送可能

NHK 放送センター屋上の受信基地局で受信 000 ドローン空撮映像約 8km ジンバルカメラ FPU 送信機搭載機器用バッテリー 「空飛ぶロボカメラ」ドローン実験の様子 000 アンテナ切替装置

②ドローンの監視・制御信号の送受信携帯電話回線が圏外の地域や、通信が輻輳する災害時でも安定して利用可能

③地上端末への通信中継ドローンに搭載した無線 LAN のアクセスポイントにより、地上端末との通信を中継することで、災害などで通信手段が途絶えた地域にドローンが臨時の IP 回線を提供するという応用も可能

■実証実験の結果

2026 年 3 月に行った実験において、基地局から約 7 km 離れたドローンとの間で約 10 Mbps の IP 回線を構築し、ドローンから基地局への映像伝送と、基地局からドローンの監視・制御を同時に行えることを確認しました。

【今後の展望】

これらの技術は、5 月 28 日 (木) ~ 31 日 (日) に開催する「技研公開 2026」で展示。

今後は、開発した無線伝送技術とドローンを用いて実運用を想定した検証を進め、さらなる性能改善に取り組んでいきます。視聴者のみなさまへ、より臨場感のある映像や安心・安全を支える情報を提供できるよう、無線伝送技術の進化を通じて貢献してまいります。技研公開 2026 「拓く、支える、これから」

●開催期間：5 月 28 日 (木) ~ 31 日 (日)

午前 10 時 00 分 ~ 午後 5 時 00 分 (入場は終了 30 分前まで)

●会場：NHK 放送技術研究所 (東京都世田谷区砧 1 丁目 10-11)

●入場：無料 (事前予約不要)

●ホームページ：<https://www.nhk.or.jp/strl/open2026/>

ドローンの監視・制御画面 (飛行位置などの監視や自動飛行の制御を FPU で伝送) 無指向性アンテナ (水平/垂直偏波) 搭載機器用バッテリー 無線 LAN アクセスポイント



IP回線中継ドローン



ドローンの監視・制御画面 (飛行位置などの監視や自動飛行の制御をFPUで伝送)